

産婦人科感染症学会会員各位

日本産婦人科感染症学会
令和6年3月22日

劇症型溶血性レンサ球菌感染症の増加について

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (streptococcal toxic shock syndrome: STSS) は、急激で劇的な病状の進行を特徴とする致死率の高い感染症です。STSS の病原菌は、主に A 群溶血性レンサ球菌 (group A Streptococcus: GAS, *Streptococcus pyogenes*) です。近年、STSS 症例数が増加傾向ですが、今年に入ってから急激に増加しています。



国立感染症研究所 IDWR データより作成

病原性・伝播性の高い UK 株が日本国内の症例から検出されています

2011 年以降、欧州、北米、豪州等では発赤毒素の産生量が約 9 倍多く、伝播性も高い UK 系統株が主要な分離系統となっています。2023 年夏以降、日本国内で初めて、*S. pyogenes* M1 型 UK 株 (UK 系統株) の集積が確認されました。

GAS は飛沫感染、接触感染により伝播します

臨床症状は、上気道炎 (主に咽頭炎)、四肢の疼痛、腫脹、発熱、血圧低下などです。発病から病状の進行が非常に急激かつ劇的で、発病後数十時間以内には軟部組織壊死、急性腎不全、成人型呼吸窮迫症候群 (ARDS)、播種性血管内凝固症候群 (DIC)、多臓器不全 (MOF) を引き起こし、ショック状態から死に至ることもあります。

産婦人科領域でも STSS は問題の感染症です

妊婦では、GAS 感染から STSS に急激に進行することがあります (劇症分娩型 A 群レンサ球菌感染症)。劇症分娩型は、進行が急速で死亡率が極めて高いため、迅速な対応が求められます。STSS を疑う場合には家族歴 (同胞の上気道炎や溶連菌感染症) を聴取し、感冒症

状が先行するような時には迅速診断キットを用いて速やかに診断し、治療することが重要です。**産婦人科診療ガイドライン 産科編 2023 CQ506 2.3** をご参照ください。

STSS は 5 類全数把握疾患です

STSS は、感染症法に基づく感染症発生動向調査において、5 類全数把握疾患と定められています。

参考リンク集

- 国立感染症研究所 IASR
A 群溶血性レンサ球菌による劇症型溶血性レンサ球菌感染症の 50 歳未満を中心とした報告数の増加について (2023 年 12 月 17 日現在)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/group-a-streptococcus-m/group-a-streptococcus-iasrs/12461-528p01.html>
- 国立感染症研究所 感染症発生動向
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr.html>
- 東京都保健局 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (STSS) とは
https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/kansen/stss_kansen.html